

さて、12月号です。今年もいろいろありました。11月1日に書いていますが、皆様のお目に触れるのは12月。というワケで、今年の締めくくりに、どんなコトを書こうかなあ、とぼんやり考えていたところ、そうだ、年末なので、せっかくだから誰かの事を褒めちぎってみようじゃないの！と、唐突な、思考の方向性がよくわからないことを考えてしまっていたのでした。

で、誰を褒めちぎろうか、と思いついた末、かおりサンを褒めちぎる事といたしました。

かおりサン。ざっくり説明いたしますと、横浜の辺境地、駅から離れた緑の多い住宅街の県道沿いにポツリと佇む、スタイリッシュな「立ち飲み屋さん」をひとりで切り盛りしているフシギな女性です。初めてそのお店に足を踏み入れた時を思い返してみましよう。不慣れた街で道に迷って途方に暮れた僕が、遠くにぼんやり浮かぶ、なにやらお店らしき明りに吸い寄せられ何とかたどり着き、恐る恐るその店のドアを開けるとカウンターの向こうにエプロン姿の品のいい、なぜこんな僻地にこんな絶世の美女が！と、軽く眩暈を覚えつつレモンサワーを注文したと、まあそんなところです。

あるはずのない場所に、ありえないお店があつて、扉を開けるとクールな美女が微笑んでいる。これは、雪の森で道に迷いポツンと佇む山小屋を見つけて入ってみると、この世のものとは思えない美しい雪女と遭遇した、

ということと同じくらい神秘的な出来事です。

さて、そのかおりサン、特筆すべきは、その美貌だけではありません。何と言つてもお店で供されるお料理が、これまた美味だとくる。

そりゃなんだかんだ言つてもそこは「立ち飲み屋さん」なので、お値段的には抑えられていますよ。でもねー、なんかオシャレなんだなー、おつまみが。なんか洗練されているんですよー、酒の肴が。なんか拘りを感じるんだねー、お酒のチョイスに。

これは僕の持論であります、美しい人が作る料理は美味しい、を、まさに証明することあります。ま、言い方の角度を変えると、ちょっとした美人が作った料理は、そうでない人が作った料理よりも、何となく美味しく感じる、とも取れますすけどね。こんなこと書くともたお叱りを受けそうだけど。

女優さんのようなオーラを持つ美しい人が微笑みながら作るセンスのいい料理、それだけでもお店の中の雰囲気は、上質なものになるのは言うまでもありませんが、そのかおりサンのイチバンの褒めちぎり部分は、何と言つても、毒舌にあります。

知り合つて間もないころ、ふとした会話から「おいしい水とか言つてお金出してみんな買うけど、飲んでみりゃただの水じゃね？と思いませんか？」と言ひ出したと思つたら「鎌倉ハムとかなんとか言つてみんなありがた

エッセイスト 北園修

横浜生まれ、横浜育ち。
東京コピーライターズクラブ在籍。
クリエイティブディレクター、エッセイスト。

がつて食べてるけど、食べてみりゃ、フツのハムじゃね？って想いません？」といった、「アタシそういう人達の感覚わかんないんですよーみたいなの？」と、会話の中に細かい毒のエッセンスが効きまくり。きれいな顔で丁寧な言葉で毒を吐く。

極めつけは「これ、ちょっと言いくいんですけれど、オサムさん、相田みつをの詩っていいと思います？あたし嫌いで。でも相田みつを嫌いつて大声で言うって世間の人達から悪いヤツだと思われそうで今まで言えなくて」とカミングアウト。はい、水にしるハムにしる、相田みつをさんの詩にしる、僕もまったく同じ意見を持つていました。そんなことから意気投合し、顔を合わす度に相田みつを先生の詩のパロディーで大盛り上がりです。みつを先生ファンの方、どうか気を悪くされぬよう。年末にかおりサンを褒めちぎつてみただけでも。



Photo:藤間 久子「Slowly」

岡山県生まれ。JPS(日本写真家協会)会員。
カメラマンとして活動の傍ら、個展やフォト&エッセイなど自分の作品づくりに励んでいる。